

国営越後丘陵公園 整備・管理運営プログラムについて

村上 和久¹・細井 和生²・大竹 日本男³

¹国営越後丘陵公園事務所 (〒949-2043 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950番1)

²国営越後丘陵公園事務所 調査設計課 (〒949-2043 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950番1)

³国営越後丘陵公園事務所 総務課 (〒949-2043 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950番1)

国営越後丘陵公園事務所では、令和3年度から令和7年度までの整備及び管理運営に関する重点事項や開園計画等を内容とした「国営越後丘陵公園 整備・管理運営プログラム」を策定し、パブリックコメントを経て公表を行ったことから、これらについて報告する。

キーワード 国営公園、越後丘陵公園、整備・管理運営プログラム、パブリックコメント

1. はじめに

国営越後丘陵公園（以下、「当公園」という。）は、北陸地方の広域レクリエーション需要に対応するため、全国で13番目、本州日本海側唯一の国営公園として、新潟県長岡市において「天に学び、地に遊び、人と集う、越の里」のテーマのもと平成元年度より事業を進めている。

当公園から100km圏内に新潟県上・中・下越の大半を含み、首都圏までは概ね200kmの距離に位置している。

当公園は、関越自動車道長岡IC及び、長岡南越路スマートICから至近の距離に位置する丘陵地帯（全体面積約400ha、標高80～260m）で良好な交通条件や恵まれた自然条件を活用し、雪国の風土を活かしつつ、四季を通じて誰もが広々とした園内で遊び、色とりどりの花を楽しみ、里山の自然や暮らしを体験できるとともに、誰もが安全・快適に利用できるよう、園内の各施設はユニバーサルデザインを基本として整備を進めている。

また、管理運営にあたっては、園内の豊かな自然環境や地域の観光資源を活かし、地域のボランティア等との連携のもと、里山の自然環境とのふれあいの機会の提供や、イベントの充実、効率的な管理運営等を進めている。

本稿は、平成10年7月に開園し、24年目を迎えた当公園を、多くの方が利用しやすい公園とするために、令和3年度から令和7年度までの整備及び管理運営に関する重点事項や開園計画等を内容とした「国営越後丘陵公園 整備・管理運営プログラム」を策定し、国民の皆様から広くご意見を伺うため、意見公募（パブリックコメント）を経て、令和3年6月25日に公表を行ったことから、これらについて報告するものである。



図-1 位置図



図-2 全体構成図

2. これまでの整備概要

(1) 供用の経緯

当公園は、昭和62年度に長岡市川西地域西部の丘陵地を国営公園候補として決定し、平成元年度より事業に着手した。平成3年度より「健康ゾーン」の工事に着手し、平成10年7月30日に一部（29ha）を開園した。その後整備を進め、平成15年度には120haが概成した。「里山フィールドミュージアム」（以下、「里山FM」という。）は、平成15年度より整備に着手し、令和2年4月までに217.3haを開園した。



写真-1 健康ゾーンの主な施設（ばら・遊具）



写真-2 里山FMの主な施設（古民家・遊びの里）

(2) 入園者数の推移

開園以来入園者が増加し、現在は年間50万人前後で推移しているが、平成27年度をピークに近年は右肩下がり傾向を示しており今後の課題となっている。



図-3 入園者数の推移

3 整備・管理運営プログラムについて

(1) 今後5年間の整備・管理運営の重点事項

当公園は、平成10年の開園以来、「天に学び、地に遊び、人と集う、越の里」を基本テーマとして継続的な整備を進めており、計画面積約400haのうち約340haが開園している。今後は、広大な自然環境を有する里山FMの未開園区域について整備を進めるとともに、その活用によって新たな魅力や機能を付加することが課題となっている。

また開園から20年以上が経過し、施設の老朽化や陳腐化が進み、それに伴い健康ゾーンの一部では利用率の低いエリアが存在するなど、既存施設の再整備による魅力

の再創造が求められている。

以上のような現状の課題、及び社会情勢の変化などを踏まえ、令和7年度までの整備・管理運営の重点事項を以下のように定めた。

a) 全面開園による魅力の強化と利用快適性の向上

里山FMの未開園区域の全面開園や東口ゲートの新規オープンによって、幅広い利用者層に向けた新たな魅力を提供する。

また最新の情報技術（ローカル5GやAIなど）を活用した情報提供や、案内施設の多言語化等により、訪日外国人旅行者への対応を含めたユニバーサルデザイン化の継続的な推進によって、利用者が安心して快適に利用できる公園を目指す。

b) 長寿命化と再整備によるコスト縮減と魅力の向上

既存の公園施設について、長寿命化計画に基づく予防保全管理を徹底してトータルコストの縮減を図るとともに、老朽化施設や利用率の低いエリア（銀河の丘、フォリーの丘など）の再整備によって、社会のニーズに即した新たな魅力を創出する。これらにより、サービスの質の確保とコスト縮減の両立を目指す。また利用者の安全・安心を確保するため、感染症対策、獣害対策に十分な配慮を行う。

c) 災害に強い地域づくりへの貢献

災害時の広域防災拠点として位置づけられている健康ゾーンでは、駐車場や汚水排水施設の整備などによって、災害時の円滑な復旧活動に貢献する。

また、里山FMの未開園区域の整備推進により、災害時に利用可能なスペースをさらに拡充するなど、一次避難地としての機能確保を進め、災害に強い地域づくりに貢献できる公園を目指す。

d) 地域の観光資源や産業との連携

北陸自動車道大積スマートIC（仮称）及び長岡ニュータウン連絡道路の新規整備を見据え、広域的な観光資源や文化・産業との連携を一層強化し、活力ある経済・生活圏の形成に貢献する。また民間企業を含め、地域の多様な主体との連携・協働を進め、地域の活力向上に資する公園を目指す。

e) 自然環境の保全と多面的・複合的な利活用

公園区域内の特徴ある里山環境を、ボランティアの協力のもと、適正な管理を行って本来の姿の維持を継続的に進めることにより、地域の生物多様性向上に貢献する。

里山FMにおいて、自然探勝、スポーツ・レクリエーション、環境学習の場といった多面的・複合的な利活用を促進し、新たな魅力や機能を提供する公園を目指す。

(2) 各ゾーンの目標

a) 健康ゾーン

《施設の再整備により、高齢化社会にも対応した

魅力ある「花と緑の空間」の再創造を目指します》

高齢者や訪日外国人旅行者を含む、幅広い利用者層が公園を快適に利用して頂けるよう、国営越後丘陵公園ブランドである香りのばら園や、多彩な花空間の充実に引き続き取組むとともに、広大な緑の空間をより楽しんで頂けるように、既存施設の再整備を進める。



写真-5 香りのばら園・アジサイ園・花の丘（コスモス）

b) 里山フィールドミュージアム

《未開園区域の全面開園により、里山の自然とスポーツ・レクリエーションを満喫できる多彩なフィールドミュージアムを目指します》

ボランティアの方々の協力を得ながら、越後の里山ならではの植物の植栽や林床の整備を行って、美しい里山の風景と環境の維持・拡大を図る。



写真-6 あそびの里（ランニングバイク）古民家（稲刈り体験）

また、追加開園を予定する「かわべの里」「森のめぐみの里」では、開園済みの「あそびの里」とあわせ、里山FMならではの風景と環境を活用した、多様なアウトドアスポーツ・レクリエーション空間として、幅広い利用者層に魅力を提供する。

(3) 整備方針

a) かわべの里の整備によるアウトドアスポーツ・レクリエーション空間の拡充 →重点事項 a)



図-5 かわべの里イメージ

「かわべの里」においてマウンテンバイクコースや関連する便益施設等の整備を進め、追加開園を目指す。これにより「あそびの里」と連携したアウトド

アスポーツ・レクリエーション空間としての機能を強化し、幅広い利用者層に魅力を提供する。整備にあたっては、里山の風景と環境の保全・活用に十分配慮するとともに、専門家の指導を受けながら事業を進める。

b) 森のめぐみの里の整備による里山フィールドミュージアムの新たな魅力の創出 →重点事項 a)

「森のめぐみの里」において、花木園、見晴らしの丘、疎林広場、修景池（調整池）、拠点施設、東ロゲート、駐車場等の整備を進め、追加開園を目指す。

これにより、地域団体、学校と連携し、森のめぐみを楽しむあえる魅力的な広場空間を創出し、里山FMのエリア全体の利用を推進する。

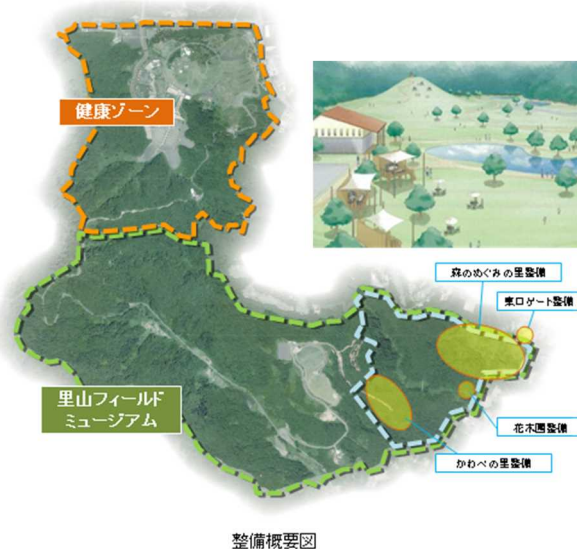


図-6 整備概要図（森のめぐみの里）

(4) 管理運営方針

a) 休憩施設や便益施設の充実による利用快適性・サービスの向上 →重点事項 a)

緑の千畳敷など日陰を提供する休憩施設が不足しているエリアでは、パラソルやタープ等のレンタルサービスを行い、日陰空間を提供する。また自然探勝路など、座って休める場所の不足が指摘されているエリアでは、ベンチの増設により快適性を高める。

また、障害者に配慮したバリアフリー化や、トイレ改修、授乳室の増設などにより利用者の快適性・サービスの向上を図る。



写真-7 ニーズの多様化に対応するトイレ改修

駐車場の再整備により、利用のしやすさと不足する駐車容量の拡大を図る。また混雑時の不満を解消する適切な誘導対応などのサービス向上に努める。

b) 訪日外国人旅行者への対応も含めた園内サービスガイド機能の向上 →重点事項 a)

サインの多言語化により利用しやすさの向上を図るとともに、Wi-Fi環境の整備やローカル5Gの導入を引き続き推進し、訪日外国人旅行者への対応も含めた園内サービス、ガイド機能の強化を図る。

また、外国人のニーズの把握を継続して行うとともに、インバウンド促進にむけた公園ルールの周知やサービス、園内スタッフの教育を行う。



写真-8 無料 Wi-Fi の整備 (花と緑の館)

c) 効果的な情報発信による利用促進 →重点事項 a)

SNSの更なる活用や外国語での情報発信など、多様な広報媒体を最大限に活用し、公園の施設情報やイベント情報の発信を継続的に実施していく。

d) 既存施設の長寿命化と再整備による魅力の向上 →重点事項 b)

健康ゾーンでは、主要建築物や木製遊具等について、長寿命化計画に基づく予防保全対策管理を徹底し、コストの縮減を図る。

また、銀河の丘・フォリーの丘など、利用率の低いエリアの再整備に着目し、高齢者を含む利用者が、気軽にゆっくりと時間をかけてくつろげる空間づくりを目指し、「広大な空間を活かしたダイナミックな花空間の創出」、「周遊性を向上させる園路や眺望をいかした施設の再整備」等を進める。

e) 里山FMの快適性・安全性の向上 →重点事項 b)



写真-9 トレイルランニングコースづくり

里山FMでは、利用者の多いカタクリ大群落周辺の園路について、老朽化した案内標識等の再整備により利用者の利便性の向上を図るとともに、利用者の少ない散策路の廃止・統合を行い、維持コストの縮減を図る。併せてボランティアの協力のもと、林床植物の群生地の保全やトレイルランニングコースの整備拡充によって魅力を向上し、利用の促進を図る。

f) 利用者の安全、施設の機能の確保 →重点事項 b)

遊具の点検等、日常点検を基に適切な補修を行って、施設の長寿命化を図るとともに、利用者の安全・安心を確保する。

また、利用者への注意喚起や三密対策、除菌・検温等のサポート、園内施設の消毒など、感染症予防対策に十分配慮した管理・運営を進める。

自治体とも連携しながら、近年の課題となっている獣害対策に取組み、利用者の安全を確保する。

g) 効率的な管理運営 →重点事項 b)

新技術・情報技術の活用による効率的な管理運営の実現に向け、ロボット芝刈り機等の導入を進める。

また、引き続き、雨水の利用や、太陽光発電などエコエネルギーの活用による環境負荷の低減に取組む。



写真-10 ロボット草刈り機 (イメージ)

h) 自治体等との連携による災害時の迅速な対応 →重点事項 c)

災害発生時において復旧活動等の支援に迅速に対応できるよう、自治体等との連携を図る。

また、新たに開園する森のめぐみの里のオープンスペース等を活用し、災害時の一次避難地としての機能確保など、自治体の防災対応を支援する。

この他、来園者の防災意識向上のために、園内での防災体験プログラムを定期的実施する。



写真-11 楽しみながら防災意識を高めるキャンプの楽校

**i) 新規道路整備を契機とした広域圏からの利用促進
→重点事項 d)**

国営越後丘陵公園ブランドでもある香りのばらまつりなど、現在の人気イベントを継続し、より幅広い利用者層が参加できるように関連イベント等の拡充を図る。

また、北陸自動車道大積スマートIC（仮称）、長岡ニュータウン連絡道路の新規整備を契機として、これらを広域にPRし、関越自動車道経由での関東方面からの利用誘致に加え、上越・北陸・長野方面からの誘客を促進する。



写真-12 香りのばらまつりとローズウェディング

j) 地域連携の強化による利用促進 →重点事項 d)

北陸自動車道大積スマートIC（仮称）の開通を活かし、雪国植物園、県立歴史博物館、道の駅「ながおか花火館」など、近隣の施設との共同イベントの開催や地元行政と協働した取組みの展開により、地域連携を強化する。

また、地元の産業や、地域の生産者・JA等との連携・協働を強化し、地場産品のPRや地産地消活動にも貢献する。

さらには、広域的な連携強化として、見附市のイングリッシュガーデンを始めとする周辺資源と歩調を合わせたガーデンツーリズムの取組みを進める。



写真-13 新潟県内の花修景施設との共同イベント

k) 里山の保全と活用 →重点事項 e)

里山の自然環境を楽しむフィールドとして、間伐や下草刈りなどの適正な樹林管理を行っていくことにより、生物多様性の保全にも資する健全な里山を維持し活用していく。

また、追加開園となるエリアも含め、こうした里

山の良好な景観と環境を活かしながら、トレイルランニング、ノルディックウォーキング、マウンテンバイク、デイキャンプなどの場としての利用を強化していく。



写真-14 ボランティアによる下草刈り

l) 公園パートナーとの協働 →重点事項 e)

NPOやボランティアとのパートナーシップによる公園づくりを進めるとともに、地域のコミュニティを育む場として支援する。

また親子でボランティアに参加できる機会を増やすなど、活動の楽しさを伝え、ボランティアの輪を広げる取組みを進める。



写真-15 ボランティアガイドによるばら園の案内

(5) 事業に伴い期待される効果

整備・管理運営方針に基づいた施策を実施することにより、以下のような事業効果が見込まれる。

a) 地域活性化

- ・里山FMの全面開園や東ロゲートの新規オープンにより利用者の増加が見込まれる。これにより、周辺観光施設等への波及効果が及ぶことで、地域活性化効果が強化される。
- ・新規道路整備を契機として、「香りのばら園」など国営越後丘陵公園のブランド力を効果的にPRすることで、広域圏から当地域への観光利用を促進する効果が期待できる。
- ・地元の近隣施設などと連携し、イベントによる協力や共同事業を強化することにより、地域の観光振興に貢献する。
- ・健康ゾーンの再整備により、魅力ある「花と緑の空間」が再創造されることで、高齢者をはじめとした幅広い利用者層への訴求力が高まり、地域の魅

力づくりに貢献する。

b) 自然環境保全

- ・ボランティア等との協働活動により、里山として自然環境に対する適切な管理作業を継続することで、地域固有の生物生息環境の保全など、自然環境保全効果が維持される。
- ・ボランティア活動の支援や、自然とふれあう親子向けのプログラムを開催し、失われつつある里山の大切さを多くの人々に知って頂くことで、環境保全活動を持続的に支える人材が育成される。

c) 地域の防災・減災

- ・里山FM未開園区域が全面開園し、災害時に活用可能なオープンスペースが拡充し、一次避難地としての機能が確保されることにより、地域の防災・減災に係る効果が強化される。
- ・さらに、災害時を想定した防災体験プログラムを定期的実施することにより、地域住民や来園者の防災意識向上に貢献する。

4. 意見公募（パブリックコメント）の取り組み

(1) 意見公募の方法

本プログラムの公表に際し、国民の皆様から広くご意見を伺うため、意見公募（パブリックコメント）を令和3年5月27日～6月16日までの3週間にわたって実施した。

意見募集開始となる令和3年5月27日には記者発表を行い、国営越後丘陵公園 整備・管理運営プログラム（案）は、国営越後丘陵公園事務所ホームページからダウンロード配布するとともに、国営越後丘陵公園内の花と緑の館 総合案内所、国営越後丘陵公園事務所 調査設計課及び北陸地方整備局 建政部 都市・住宅整備課の3箇所でも配付可能とした。



北陸地方整備局
国営越後丘陵公園事務所

国土交通省

記者発表資料
令和3年5月27日
本資料の発表をもって解禁

**国営越後丘陵公園 整備・管理運営プログラム(案)について
ご意見を募集します！**



国営越後丘陵公園は、平成10年7月に開園し、24年目を迎えました。本公園を、多くの皆様が利用しやすい公園とするために、令和7年度までの整備及び管理運営に関する「国営越後丘陵公園 整備・管理運営プログラム(案)」を策定しました。つきましては、国民の皆様から、広くご意見を伺うため、意見募集を実施いたします。「国営越後丘陵公園 整備・管理運営プログラム(案)」をお読みになり、是非、皆様のご意見をお寄せください。

■ 資料配布方法 下記のホームページからダウンロード（PDF形式）していただくか、下記の場所でも配布しております。

資料ダウンロード	国営越後丘陵公園事務所ホームページアドレス https://www.hrr.mlit.go.jp/echigo/park_menu/office/program/index.html
資料配布場所	国営越後丘陵公園内 花と緑の館総合案内所 国土交通省国営越後丘陵公園事務所 調査設計課 国土交通省北陸地方整備局都市・住宅整備課

■ ご意見の応募方法
①電子メール：echigo@hrr.mlit.go.jp ②ファクシミリ：0258-47-1468
③意見箱：国営越後丘陵公園内 花と緑の館総合案内所

意見募集期間：令和3年5月27日(木)～6月16日(水)

写真-16 意見公募の記者発表を実施

また、ご意見の受付方法は、①電子メール、②ファクシミリ、③ご意見箱（国営越後丘陵公園内の花と緑の館 総合案内所）のいずれの方法でも可能とし、応募しやすい環境を整えた。

(2) 応募されたご意見の内容

意見公募により11名の方から延べ26件のご意見が寄せられ、内容が幅広い項目にわたっていることから、当公園の整備・管理運営に関する利用者の関心の高さがうかがえた。

寄せられたご意見の内容や件数は以下のとおり。

- ・パークゴルフ場、あそびの里の有効活用 4件
- ・めくみの里・かわべの里整備、里山FM活性化 4件
- ・園路を利用したマラソン・サイクリングなど 3件
- ・フォリーの丘リニューアル（有効活用）など 3件
- ・里山FMのキャンプ場、BBQ設備 2件
- ・里山保全に関すること 2件
- ・東口早期オープンへの期待 2件

この他にも、香りのばら、大人向けアスレチック、高齢者無料、ストック効果、地域連携（特産物）及び災害時の一時避難の場に関する意見を各1件いただいた。

これらのご意見は「激励」や「期待」といったものが多く、本プログラムを修正するまでには至らなかったが、全てのご意見に対し回答を作成し、事務所ホームページにて本プログラムとあわせて令和3年6月25日に公表している。

5. おわりに

当公園は、香りのばらを始めとする花修景や、ふわふわドームなどの大型遊具等により多くの方から利用され、「四季を通じて楽しめる公園」として満足度の高い公園となっているが、近年の全国的な新型コロナ感染症拡大防止対策により、当公園でも一部施設の閉鎖や、イベントの人数制限などの実施を余儀なくされ、目標とする年間利用者数の達成が困難な状況となっている。

パブリックコメントで寄せられた多くの「激励」や「期待」に応えるべく、本プログラムの推進とあわせて、今後は利用者ニーズを的確に把握し、来園者増加へのあらゆる工夫にも取り組んでいく必要がある。

また、本プログラムは、事業の進捗状況などを踏まえて、適宜見直しを行っていくものである。パブリックコメントでいただいたご意見を参考に、今後具体的な施設の計画・設計を進めていくとともに、今後も引き続き感染症対策を行いつつ、適切な公園の整備・管理運営により安全で信頼のある公園となるよう対応していきたい。